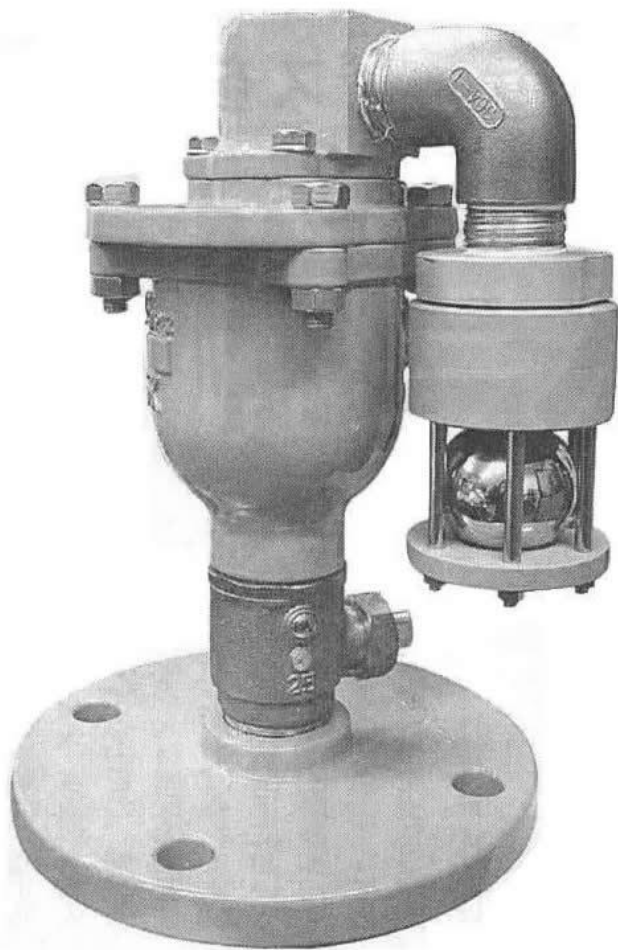


千代田工業
新型空気弁

冠水で自動吸気遮断

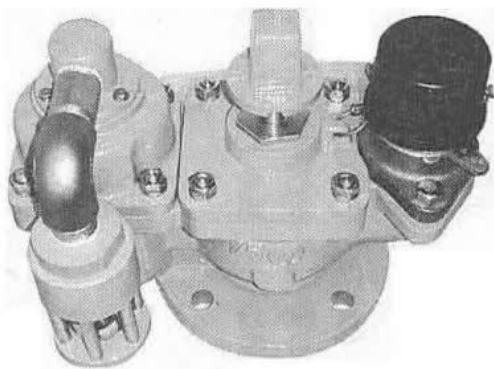
汚水流入防止を内蔵

千代田工業は、濁水の吸い込みを防止する「汚水流入防止機能付き空気弁」(特許出願中)を開発した。従来、大雨などにより地中の空気弁ボックスが冠水した場合、空気弁作動に伴ってエアードと同時に濁水を吸い込み、水道管内が汚染されるおそれがあったが、同弁は冠水時には自動的に吸気を遮断し、冠水がなくなると再び吸気を行う機構を内蔵。空気弁分野で見過ごされていた課題の解決に貢献できる。



汚水流入防止機能付 急速空気弁

最近発生頻度が増えている集中豪雨や局地的大雨に



汚水流入防止機能付
空気弁付消火栓

より、空気弁ボックスが降雨や溢水などで浸水し、空気弁が濁水に浸かるケースが出てきている。メンテナンスで定期的に排水を行うものの、その間、濁水がたまった状態で空気弁が作動した場合、吸気とともに濁水を吸い込み、管内を汚染するおそれがある。

千代田工業が開発した「汚水流入防止機能付き空気弁」は、濁水がたまった状態では吸気を遮断し、排水のみを行う。濁水がなくなれば、自動的に吸排気機能が復帰する仕組み。

今回、同社の空気弁付消

火栓と急速空気弁に「汚水流入防止機能」を新たに加えラインナップを揃えている。価格は、WMC型汚水流入防止機能付空気弁付消火栓が17万8000円、WMC型汚水流入防止機能付急速空気弁(口径25ミ)が8万9000円となっている。